

西垂水 散策マップ

地域の魅力を再発見!

凡例

- 学校・幼稚園
- 公園・緑地
- 郵便局
- 交番
- 主なトイレ
- おすすめスポット (裏に紹介文あり)
- ビュースポット
- 鉄道・駅
- バス路線・バス停
- その他の主要施設
- まち歩きおすすめルート
- 生活文化圏の境界



垂水 (たるみ) って?
 「石(いわ)ばしる垂水の上のさ萩(わらび)の萌(も)え出づる春(はる)になりけるかも」(万葉集・志貴皇子)の歌からもわかるように、垂水は古語で滝のことを示します。須磨から垂水の海岸は絶壁となっているところが多く、滝がいくつもあったことから地名になったといわれています。

神戸商大旧敷地の旧石器
 昭和25年頃、神戸商大の敷地拡大造成をしていた時、学生が旧石器の刃器(じんぎ)を発見しました。1万年以上も前に既に生活があった証ですが、残念なことに、その後、紛失してしまいました。

中央部ルート
 急な坂や長い階段などがありますが、眺望のよい場所がたくさんあるルートです。

堀割 (バス停)
 かつて、この北部から取水して下流の西垂水の田に水を引いており、ここに堀割が通されていた名残です。

水道橋 (バス停)
 昭和30年ごろまでは、このあたりで福田川の水をせき止め、水道水として利用していたことの名残です。

東ルート
 きれいな公園・花壇や福田川沿いを散策していただくルートです。

クラブ前 (バス停)
 昭和初期、このあたりは宅地として開発され、当時、地域住民が集う施設(クラブ)があった名残です。

福田川
 源平合戦の野戦があったところで、戈(ほこ)を田の中で交えたということから、戈田川と言っていたのが、変化して現在の名になった、という説があります。

いちご狩り
 戦前は霞ヶ丘、歌敷山、五色山のあたりはいちご畑が広がっていました。現在の食用いちごは、16世紀にオランダからきたようですが、農産物として出荷しはじめたのは大正時代からです。昭和のはじめに、ここで一般に開放したのが、日本の観光いちご狩りのはじまりといわれています。

